

令和5年12月1日

令和5年度における「日本遺産審査・評価委員会」の 審議結果を公表します

平成29年度に認定された「日本遺産」の総括評価・継続審査等について、令和5年度における「日本遺産審査・評価委員会」の審議結果を公表します。

平成29年度に認定された「日本遺産」の総括評価・継続審査について（再審査の結果）

【令和5年度における「日本遺産」の候補地域の認定及び総括評価・継続審査の結果の発表について】（令和5年7月14日）において、再審査を行うこととした2件について、今般「日本遺産審査・評価委員会」における審議を経て、「認定継続（条件付）」としました。

詳しくは、以下の資料を参照願います。

別紙1 平成29年度認定日本遺産総括評価・継続審査結果一覧

別紙2 平成29年度認定日本遺産総括評価・継続審査結果（再審査分）

【参考1】令和5年度日本遺産審査・評価委員会委員名簿

【参考2】「日本遺産（Japan Heritage）」事業について

<担当> 文化庁参事官（文化拠点担当）
参事官 磯野
参事官補佐 三木
係長 田村
電話：03-5253-4111（代表）
直通：03-6734-4909（直通）

	ストーリー 番号	都道府県名	申請者 (◎印は代表自治体)	ストーリー
重点 支援 地域	42	三重県、滋賀県	三重県(伊賀市)、滋賀県(◎甲賀市)	忍びの里 伊賀・甲賀 -リアル忍者を求めて-
	51	高知県	奈半利町、田野町、◎安田町、北川村、馬路村	森林鉄道から日本一のゆずロードへ -ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化-
認定 地域	39	北海道、青森県、秋田県、山形県、新潟県、富山県、石川県、福井県、京都府、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、香川県	北海道、青森県、秋田県、山形県(◎酒田市)、新潟県、富山県、石川県、福井県、京都府、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、香川県 (各道府県内49市町)	荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～
	40	山形県	鶴岡市	サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ
	43	京都府	◎京都府(宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町)	300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊
	44	大阪府、奈良県	◎大阪府(大阪市、堺市、松原市、羽曳野市、太子町)、奈良県(葛城市、大和高田市、橿原市、桜井市、明日香村)	1400年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」 ～竹内街道・横大路(大道)～
	45	兵庫県	姫路市、福崎町、市川町、神河町、◎朝来市、養父市	播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道 ～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～
	46	和歌山県	◎和歌山県(和歌山市、海南市)	絶景の宝庫 和歌の浦
	47	和歌山県	湯浅町	「最初の一滴」醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅
	48	島根県	出雲市	日が沈む聖地出雲 ～神が創り出した地の夕日を巡る～
	49	岡山県	倉敷市	一輪の綿花から始まる倉敷物語 ～和と洋が織りなす繊維のまち～
	50	福井県、愛知県、滋賀県、兵庫県、岡山県	福井県(越前町)、愛知県(瀬戸市、常滑市)、滋賀県(甲賀市)、兵庫県(丹波篠山市)、岡山県(◎備前市)	きっと恋する六古窯 -日本生まれ日本育ちのやきものの産地-
	52	山口県、福岡県	山口県(下関市)、福岡県(◎北九州市)	関門“ノスタルジック”海峡 ～時の停車場、近代化の記憶～
	53	熊本県	山鹿市、玉名市、菊池市、◎和水町	米作り、二千年にわたる大地の記憶 ～菊池川流域「今昔『水稻』物語」～
	54	大分県	◎中津市、玖珠町	やばけい遊覧 ～大地に描いた山水絵巻の道をゆく～
(認定 条件 付) 地域 ※	38	北海道	江差町	江差の五月は江戸にもない -ニシンの繁栄が息づく町-
	41	埼玉県	行田市	和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田

※条件:

- ・本評価結果を踏まえ、地域活性化計画が3年間着実に実行されるよう、候補地域と3年間磨き上げを競い合うこと。
- ・この実効性を担保するため、3年後の総括評価・継続審査において、日本遺産であることが適当とされた地域の数が、100件程度を超える場合には、認定地域(条件付)または候補地域となった地域について相対評価を行い、上位の地域を日本遺産とすること。

総括評価 概要

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」及び「小学4年生から中学3年生への「日本遺産に関するアンケート」」について、調査の大半が未実施であることから、目標の達成状況が把握できない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産への協力者数」について、目標を達成していないものの、「日本遺産のためのふるさと納税額」等については、目標を達成しており、全体として概ね目標を達成している。
(4) その他	可	■ 「地域DMOの設立・体制整備」について、目標を達成している。
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 大学との相互協力に関する協定締結や地域DMOの設立など基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 日本遺産に関する内容の長期計画への反映など戦略立案に係る土台が整備されるとともに、経済波及効果調査の実施など基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プロデューサーや地域プレイヤーが一定数存在するとともに、ガイド養成講座、地域コンセプト浸透のための地域住民や民間企業等を対象とした研修の実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(4) 整備	個別評価	可	■ 町内各所で往来の繁栄の様子が見えるような日本遺産ストーリーの紹介があることが望ましいものの、インバウンドを意識した翻訳解説板整備など基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 構成文化財においてストーリーを体感できるコンテンツが作成されているなど基礎的な取組が行われており、旅行消費額単価やリピーター率も一定程度あることから、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 町民の理解を促進するためのシンポジウム、ふるさと学習の実施など日本遺産ストーリーについての理解を促しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 日本遺産に関するウェブサイトやパンフレット等の制作など基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

日本遺産を通じた地域活性化計画 評価概要

	評価理由
<p>① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ ストーリーの体験についてさらに工夫が求められるが、ガイダンス施設の整備を進める等、具体的な計画が立てられており、一定程度評価できる。 ■ ニシンの稚魚放流やヒノキ山の植林事業など地域資源の復活を目指す事業は、資源保護の観点や、地域の将来につながる収益事業育成の観点からも評価できる。ストーリーとのつながりを持ったさらなる事業展開が期待される。 ■ ビジョンには、過去の繁栄の歴史を踏まえながら、次の将来像や産業創造、民間事業創出などを期待したい。方向性は少しずつ見えてきていると思われるため、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ ビジョンにおいて、日本遺産事業の一体的、面的な取組が見えず、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 日本遺産のストーリーの理解につながる解説や多言語化に重点的に取り組むことが課題である。
<p>② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ DMOの自立が求められるが、それまでの間、観光まちづくり協議会が中心となり、事業をマネジメントすることから、体制としては改善が図られていると評価できる。 ■ 役場内プロジェクトチームの設置を通じた体制の整備は評価できる。 ■ 事業を総括するプロデューサー人材と推進体制づくりが急務であり、計画期間中のしっかりした体制づくりと事業創出、財源の確保が必要である。 ■ 計画の実現に係る予算の確保に取り組むことが必要である。
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロジェクトを実施するにあたり、実行力が求められるため、江差町観光まちづくり協議会がPDCAサイクルを確認・検証を行い、進捗管理をしていく機関として機能し続けることに期待する。 ■ 日本遺産ストーリーに根ざし、未来を拓くことができる新しい構想が必要である。 ■ 計画がソフト主体の事業に留まるため財源確保の方策を含め、体験型観光を実現するためのまちづくり整備事業の可能性を探ることが望ましい。 ■ 小規模な自治体であればこそ、観光・まちづくりの中核に日本遺産を活用することで、地域活性化につながる期待は大きく、そのためにも、ストーリーの体感や観光戦略等にさらなるアイデアが必要である。
<p>評価結果</p>	<p style="text-align: center;">認定継続（条件付）</p> <p>（条件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本評価結果を踏まえ、地域活性化計画を3年間着実に実行し、候補地域と3年間磨き上げを競い合うこと。 ・ この実効性を担保するため、3年後の総括評価・継続審査において、日本遺産であることが適当とされた地域数が、100件程度を超える場合には、認定地域（条件付）または候補地域となった地域について相対評価を行い、上位の地域を日本遺産とすること。

総括評価 概要

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」について、目標を達成しておらず、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があるものの、それ以前の目標値を達成していない点について、やむを得ない理由等が十分示されていない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「市民意識調査の「足袋の文化」や「足袋蔵」に魅力や誇りを感じる割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	不可	■ 「ふるさと納税の日本遺産活動への寄附額の上昇率」について、目標を達成していない。
(4) その他	可	■ 「利活用、再活用となった足袋蔵等の件数」について、目標を達成している。
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

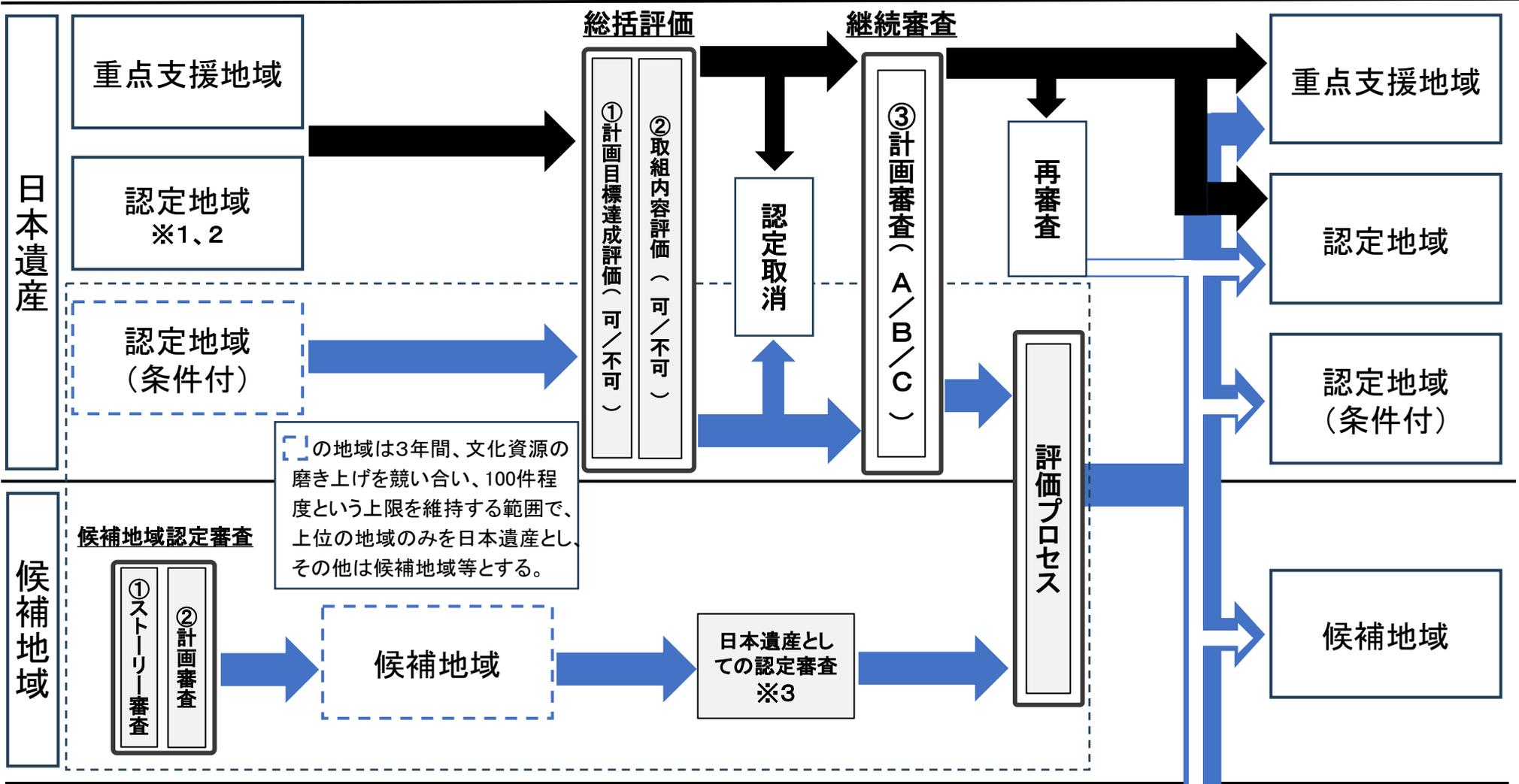
II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	<ul style="list-style-type: none"> DMOやNPO法人等との連携体制を構築するとともに、日本遺産に関連する寄附やふるさと納税等による財源確保に努めているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	<ul style="list-style-type: none"> 足袋蔵等の活用に向けたマーケティング調査など基礎的な調査が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(3) 人材育成	個別評価	可	<ul style="list-style-type: none"> 地域プロデューサー等が一定数存在するとともに、ガイド養成講座の実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(4) 整備	個別評価	可	<ul style="list-style-type: none"> ストーリーを体感するための拠点施設の整備や案内看板等の設置など基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	<ul style="list-style-type: none"> 足袋蔵の情報を知ることができる行事や商品化など足袋に興味を持ってもらうための基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生を対象とした郷土学習、マイ足袋づくり体験・足袋製造見学等による普及啓発を進めており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	<ul style="list-style-type: none"> 日本遺産のウェブサイトや民間事業者による情報発信など基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	<ul style="list-style-type: none"> 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

	評価理由
<p>① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 足袋蔵の再生・活用、活用事業者マッチング、ふるさとづくり基金などストーリーを実現するためのビジョンと取組が計画されている点が評価できる。 ■ ストーリーの体験についてさらに工夫が求められる。足袋に関するマネタイズと日本遺産全体の自立運営に関する仕組みを整理する必要がある。 ■ 埼玉古墳群、忍城、足袋蔵それぞれについては一定の方策があるが、日本遺産のストーリーとそれらの関連性を示し、全体としての価値を磨くことが望ましい。
<p>② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業を担うDMOの活動内容が明確となり、この組織を軸に積極的な事業展開が図れる体制となった点が評価できる。 ■ 商工・観光部門やDMO等との連携意識が弱く事業が偏っていたが、観光部門での経験豊富な人材の確保や多様な団体との連携を強化しようとしている点が評価できる。 ■ 戦略的・効果的な発信・地域活性化を行う体制として、統括部門の実行力や、各実践部署の連携などに課題があると思われるため、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ HPの多言語化、ストーリー理解につながる解説板やストーリーが実感できるモデルコースと交通の整備など、訪問する観光客目線での整備が必要である。
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育委員会だけが担っていた事業の枠を超え、全庁的な取組体制ができ、またDMOを軸とした事業推進体制と事業が明確となり、今後の活動に期待したい。 ■ 全体を大きな視点で構想する、プロデューサー的視点が求められる。DMOの収益構造が改善した後の大きなビジョンを可視化すべきである。 ■ 日本遺産をどのように使いたいのかが不透明であり、日本遺産ストーリーとしてのコンセプトの深化に関する取組など、民間事業者等を巻き込みながら、更なる検討・具体化が望ましい。
<p>評価結果</p>	<p style="text-align: center;">認定継続（条件付）</p> <p>（条件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本評価結果を踏まえ、地域活性化計画を3年間着実に実行し、候補地域と3年間磨き上げを競い合うこと。 ・ この実効性を担保するため、3年後の総括評価・継続審査において、日本遺産であることが適当とされた地域の数、100件程度を超える場合には、認定地域（条件付）または候補地域となった地域について相対評価を行い、上位の地域を日本遺産とすること。

令和 5 年度日本遺産審査・評価委員会委員名簿

稲葉 信子	筑波大学名誉教授・放送大学客員教授
上杉 和央	京都府立大学准教授
受田 浩之	高知大学理事
金野 幸雄	国土計画家・コンセプター
小山 薫堂	放送作家・映画脚本家
里中 満智子	マンガ家
丁野 朗	(公社)日本観光振興協会総合研究所顧問
デービッド・アトキンソン	株式会社小西美術工藝社代表取締役社長
野浪 健一	(一社)日本旅行業協会国内旅行推進部長
広瀬 和雄	国立歴史民俗博物館名誉教授
山田 拓	株式会社美ら地球代表取締役



※1 初めて、総括評価・継続審査を受ける地域を含む
 ※2 1回目の総括評価・継続審査は、3年間の地域活性化計画について行う。2回目以降の総括評価・継続審査で作成する計画期間は6年間。認定地域(条件付)となった場合には3年目に中間検査を実施。
 ※3 地域の希望を聴取した上で、3年間の計画を作成し、日本遺産としての認定審査を実施。